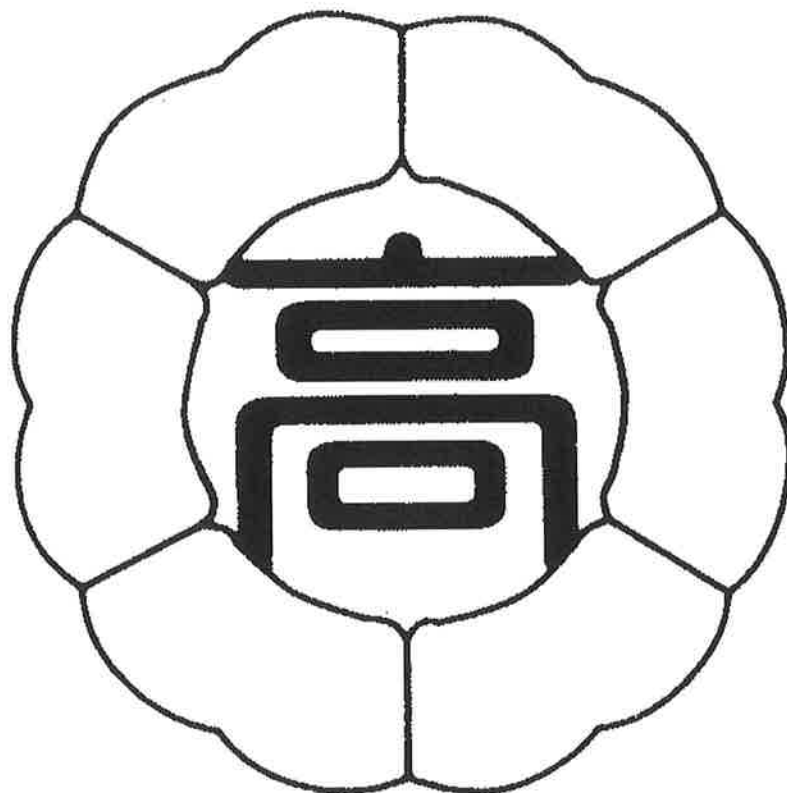


2021年度北海道大谷学園連合会
高等学校相互評価報告書

対象校 函館大谷高等学校



評価校 稚内大谷高等学校

(評価日 2021年12月17日)

2022年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主 査	中西 猛雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
主査代理	山田 寿雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
委 員	金石 潤導 (所長推薦・南第3組開正寺)
委 員	丸山 政秀 (函館大谷高等学校長)
委 員	佐藤 健一 (函館大谷高等学校 事務長)
委 員	西道 力 (札幌大谷高等学校 副校長)
委 員	鈴木 慎介 (札幌大谷高等学校 教頭)
委 員	小野 茂 (帯広大谷高等学校 教頭)
委 員	坪坂 智光 (帯広大谷高等学校 事務長)
委 員	吉田 幸麿 (稚内大谷高等学校長)
委 員	木村 泰優 (稚内大谷高等学校 教頭)

函館大谷高等学校の概要

設 置 者	学校法人 函館大谷学園
理事長名	門 間 佳 一
校 長 名	丸 山 政 秀
開設年月日	1888 (明治 21) 年 11 月
所 在 地	函館市鍛冶 1 丁目 2 番 3 号
設置学科	普通科 (普通コース・体育コース)
入学定員	130 名
教職員数	総数 52 名 常勤 29 名 非常勤 23 名

調査結果

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

明治時代の六和女学校を起源とする理念を脈々と受け継ぎ今日に至っている。現在、教職員・生徒へは、学校案内パンフレット・入学式や卒業式における式辞・挨拶の中で建学の精神・教育理念を周知している。また、地域からは面倒見の良い学校として評価が高く、人間教育を基盤とした学校づくりを着実にやってきた結果が現れているものと考えられるため、今後更なる発展が見込まれる。

II 分掌

年間計画に基づき各分掌での業務を適切に遂行している。資格取得では日本語ワープロ検定や危険物取扱者等、様々な資格取得の手助けを行っているが、放課後講習は生徒の要望に基づき実施されているとのことで、意識の高さが伺える。

生徒指導では高校生らしい身だしなみの徹底を図るべく、朝のHRにて身だしなみ点検を行うなど、徹底した指導を展開している。

生徒会活動では執行部入部が立候補制ではなく希望制で実施という部分が斬新であり、体験活動もあるということで生徒の自主性を重んじ開かれた生徒会活動が展開されているという点は評価できる。

進路指導では進路への関心を高めるべく、行事毎に事前・事後指導を行い効果的に進めている。インターンシップにおいては株式会社マイナビの「ローカス」というシステムを利用しているが、地域と学生を結びつけるより良いものとなっているようである。

入試・生徒募集では、ありのままの学校の様子を見てもらいたいという観点から、通年で随時見学を受け入れているとことであるが、平素の教育活動が順調に進んでいるという証拠であると考えられる。今後も生徒と真剣に向き合い、地域への信頼を得られる学校づくりの推進が期待できる。

III 管理運営

理事長の下、全員一致の学園運営が進められているということから、組織としての質の高さを感じる。また、評議員会参加率の高さからも、外部による学園運営に対する興味・関心の高さが伺える。

IV 財務

財務では例年収支は概ね均衡しているとのことである。今後は少子化に伴う対象人口の減少に伴い、経費の抑制等に苦慮する局面もあると思われるが、中長期に渡り健全な学校運営を行っていただけるような計画を立ててくれることを願っている。

以上

